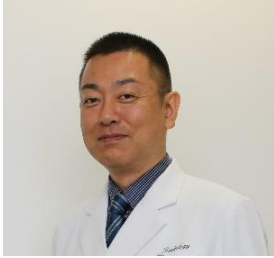


## 胸部単純 X 線画像～温故知新～

/\*\*\* 講師の加藤勝也先生よりメッセージ \*\*\*/



胸部単純 X 線画像と聞いてどのようなイメージをもつでしょうか。“昔からある検査で、もう古くて今の呼吸器診療のメインは胸部 CT でしょう。”と思われる方もいるかと思いますが。しかし、最近低線量化してきたとはいえ、胸部 CT は被曝が多く、日本では設置台数が多いとはいえ、どこでも撮影できるわけではありません。いつでも、どこでも、短時間で、低被曝で検査できる胸部単純 X 線写真は、今なお重要な役割を果たしており、これからもまだまだ撮像されていくでしょう。そして胸部単純 X 線画像には、CTと比較しても、思っている以上に病変が描出されているにもかかわらず、それを読影する側が見つけることができないという面もあります。

当日の講演では、胸部単純 X 線画像で結節性病変すなわち肺癌を見つける私なりのコツを示します。まだまだ長く第一線で使われるであろう胸部単純写真をより、適切に呼吸器診断に役立てる一助になれば幸いです。

## ピットフォールは肺野だけじゃない

/\*\*\* 講師の伊藤浩先生よりメッセージ \*\*\*/



超高齢社会になり動脈硬化性疾患、心不全などの心血管疾患を持つ患者が増加している。心血管疾患以外のために胸部 X 線や胸部 MDCT を撮像する状況も多いと思われるが、その所見を見る時に心血管病変を見逃さないことはとても重要である。本講演会では、胸部 X 線を撮影した時に心不全あるいはその予備群を見逃さないための工夫と胸部 MDCT を撮影した時に評価できる冠動脈石灰化の意義を中心に述べる予定である。明日からの臨床に役立つように平易にお話ししますので安心してください。

